

第二十二課

わたしのことはあなたがたにとどまるなら

みことばと祈り

「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことはあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」

(ヨハネ一五・七)

みことばと祈りとの切り離すことのできない関係は、クリスチャン生活の最も簡単な、初歩的な学課です。最近異教から回心した者が言ったように、祈ることは御父に話すことであり、読むことは御父が私に話すことです。祈りの前に、まず私に祈るべきことを示し、私の心を整えてくれるのが神のみことばです。祈りの中で、私の信仰に根拠と理由を与えて私を強めてくれるのが神のみことばです。祈りの後で、祈ったことの答を与えてくれるのも神のみことばです。御霊は、みことばの中で神の御声を聞かせてくださいます。祈りはひとりごとではなく対話です。私に答えてくださる神の御声は、祈りの最も本質的な部分です。神の御声に耳を傾けることは、神

が自分の祈りに耳を傾けてくださることを確信する秘訣です。「耳を傾けて聞いてください。」
「わたしのことばに耳を傾けなさい。」「わたしの声を聞きなさい。」これらは、人間が神に語り、神もまた人間にお語りになるというみことばです。神がお聞きになるのは、私たちのことばです。みことばが私に入っているかどうか、私のことばが神に対してどれほどの力があるかの計りになります。神のみことばをどれほど大切にしているかによって、神御自身をどれほど大切にしているかということ、また、祈りの中での神に対する願いが正しいかということが試されるのです。

イエスは、「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます」と言われた時、みことばと私たちの祈りとの関係を指摘なさったのです。この真理の重要性は、別の言い方と比較してみれば明らかにあります。イエスは、一度ならず、「わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります」と言われました。イエスが私たちのうちにおられることは、私たちがイエスのうちにとどまることを補って完全にするものであり、そのかなめとなるものです。しかし、イエスはここで、「あなたがたがわたしのうちにとどまれば、わたしもあなたがたのうちにとどまる」とはおっしゃらず、「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら」とおっしゃいました。みことばがとどまるとは、

御自身がとどまることと同義語です。

キリストにある神のみことばが私たちの霊的生活、特に祈りの生活においていかに重要な位置を占めているかを、この見解は明らかにしています。人間は、自分のことばによって自分を表現します。また、約束する場合、約束した相手に自分をゆだねて、義務を負います。また、命令をくだす時は、自分が主人になって相手に服従を要求し、自分の一部であるかのように相手を動かします。自分の気持が相手に通じるのはことばによってです。自分自身を相手に伝え得るのは、ことばが聞かれ、受け入れられ、守られる時です。もちろん、これは極めて相対的で、限界のあるものです。

しかし、無限の存在者としての神、いのちと力、霊と真である神は、最も深い意味でみことばを語られる時は、御自身も、愛といのちも、みこころも御力も、私たちの理解を越えて皆与えてくださるのです。すべての約束の中で神は、私たちに、神をとらえて自分のものとさせてくださいます。また、すべての命令において、私たちが、神のみこころと聖潔と完全にあずかるために御自身を与えて、これを私たちに一任せれます。神のみことばとは、永遠の御子イエス・キリスト御自身にほかなりません。キリストのみことばは、すべて神のみことばであり、神の生かすいのちと力に満ちています。「わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。」

耳や口の不自由な人のことを研究した者は、いかに、話す力が聞く力に負っているかを教えてください。聞く力に欠けると話す力にも欠けます。このことは、広い意味で、私たちが聞いたり話したりすることにも通じます。また、高度の意味では、私たちの神との交わりにも通じます。私たちが、ある願いごとを祈り、約束に訴えて求めることは容易なことです。しかし、御霊によって祈ること、すなわち、見えない世界の力に影響を及ぼすことばを語るとは、ひとえに神の御声を聞くことにかかっているのです。神がお語りになる御声とみことばに耳を傾け、みことばから、神の思いと神のいのちを自分たちの心に受ける時、私たちは、神が聞き入れてくださる声とことばで語ることができます。人に対してだけではなく、神に対して語れるように弟子のくちびるを整えるのは、毎朝目覚める時の弟子の耳です（イザヤ五〇・四）。

このように、神の御声を聞くことは、みことばを思慮深く研究する以上のことです。みことばを研究し、知識として知っていても、生ける神との真の交わりがほとんどない場合があります。しかし、御父の臨在のもとで、御霊に導かれてみことばを読む場合、そのみことばは、私たちにあって、神御自身からの生きた力となります。それは、私たちにあって御父の御声そのものとなり、また神御自身との本当の個人的な交わりとなるのです。生きた神のみことばそのものが心に入り、祝福と力を与え、神のみこころに届く生きた信仰の応答を呼び覚めます。

服従の力も、信仰の力も、この御声を聞くことにかかっています。ここで大切なことは、神が

私たちのなすべきことについて何と言われたかを知ることではなく、神御自身が私たちに語りかけてくださるということです。従順を生み出すのは、律法でも、書物でも、何が正しいかを知ることでもありません。神御自身の影響力と生きた交わりです。ですから、祈りにおいて信仰と信頼を呼び覚ますのは、神が何を約束してくださったかを知る知識ではなく、約束主である神御自身の臨在です。神の満ち満ちた臨在の中にいる時には、不従順とか、不信仰とかは考えられないものとなります。

「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」このみことばが何を意味しているか、今私には分ります。このみことばによって、救い主は御自身をお与えになっているのです。私たちは、みことばを自分の中に受け入れ、自分の意志や生活に反映させ、性格や行動の中で再現していかなければなりません。みことばが私たちのうちにとどまり、私たちの全生活がそのみことばの連続した解き明かしとなるためです。また、みことばが私たちに満ちるようにしなければなりません。みことばが、私たちのうちにキリストを示し、私たちの生活が外に向かってキリストを示すためです。キリストのみことばが心に入り、それがいのちとなって生活に影響を及ぼす時、私たちのことはみことばのうちにあって神を動かすものとなります。私の祈りは、私の生活にかかっています。神のみことばが私たちのうちで扱われる

通りに、私たちのことばも神のうちで扱われるのです。神が言われることを私が行えば、神は私の言うことを行ってくださるのです。

旧約の聖徒たちは、神のみことばと私たちのことばとの関係をよく理解していました。また、その祈りは、神が語られることに對する、見事な応答となっています。彼らは、みことばが約束なら、神はおっしゃった通りに実行してくださると信じました。「みことばどおりに行なってください。」「主よ。あなたが言われたからです。」「あなたの約束に従って……。」「あなたのみことばに従って……。」このような言い方を見ると、神が言われたことが彼らの祈りの基礎であり、いのちであることが分ります。みことばが命令ならば、彼らは、ただ主が言われた通りにしたのです。「アブラムは主がお告げになったとおりに出かけた。」彼らの生活は、神との交わり、ことばと思想の交換でした。彼らは、神が語られたことを聞き、それに従いました。神はまた、彼らが語ったことを聞き、それを行ってくださいました。私たちに語られた一つ一つのみことばの中で、キリストはそれを成就するために、すべてをささげられました。そして、一つ一つのみことばの中で、キリストは、私たちがそのみことばを守ること、また、そのみことばが成就するために自分たちのすべてをささげることを要求なさいます。

「わたしのことばがあなたがたにとどまるなら……。」条件は簡単明瞭です。みことばの中にみこころは啓示されています。みことばが私たちにとどまれば、みこころが私たちを支配します。

私自身の意志は空の器となり、みこころがそれを満たし、進んで事をなす道具として、みこころのままに用いられます。御自身が私のうちなるものを満たしてくださいのです。従順と信仰の実践のうちに私の意志は強くされ、神との深い内的一致へと進みます。神のみこころだけを行う意志に変えられると思って間違ひありません。主はためらうことなく次のように約束をなさいます。「わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」主は、それを信じ実行する者には、文字通り真実なものとしてくださるのです。

キリストの弟子たちよ！ 私たちは、頭の中だけで神の知恵とみこころに服し、口では、聞かれない祈りや祈りの力のなさを弁解します。しかし、弱い祈りの本当の理由は、自分自身の弱い生活にあるのです。神の口から出るみことばほど、私たちを強くするものはありません。そのみことばによって、私たちは生きなければならぬのです。私たちが愛し、また私たちに宿るキリストのみことばは、私たちのうちにあって、私たちをキリストと一つにし、神に触れさせ、神をとらえることのできる、霊的な適格者とするものです。それは、私たち自身の従順と行動によって成就します。世に属するすべてのものは過ぎ去ります。しかし、神のみこころを行う者は永遠にとどまります。心と生活をキリストのみことばに従わせましょう。みことばにおいて、キリストは、一人一人の生きた救い主として御自身をお与えくださいます。この約束は、私たちの貴重

な経験となるでしょう。「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」

恵み深い主よ。きょうのあなたの御教えによって、もう一度私の愚かさが分りました。私の祈りがどうして信仰的でないのか、また力がないのかよく分りました。私は、あなたがお語りになることばに耳を傾けるよりも、私の方が語ることに夢中になっていました。生きたみことばがたましいのうちにとどまる時に初めて、信仰が生れるという秘訣を理解しませんでした。

私はあなたのみことばによって、だれもが聞くに早く、語るに遅い者となるようにということをはっきり教えられました。神の前で、語ることにみに性急な者とならないようにしてください。主よ。あなたのみことばが私の生活の中に取り入れられて初めて、私のことばがあなたの心に取り上げられることを教えてください。あなたのみことばは、私に対して力があるように、あなたにとっても力があります。あなたの御口が語られたことは、あなたの御手が成就してください。

主よ。無割礼の耳とならないように助けてください。教えられる者としての開かれた耳をお与

えくください。朝ごとにあなたの御声を聞かせてください。あなたは、お聞きになり、またお語りになります。私が語る時、それを模範とさせてください。「神と語るために幕屋に入ると、モーセは、恵みの御座からお語りになる方の御声を聞いた。」主よ。私をモーセのようにならせてください。一つのしるし、すなわち、みことばが私のうちにとどまり、それを外に現す生涯と品性が、「何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます」という約束の全き祝福を受けますように。アーメン。